

小学校

## 大切なからだ

### ○目標となる資質・能力

自尊感情・自己効力感、思いやり・他者理解

### ○指導のねらい

人間マップの作成を通して、自他の命の尊さを実感し、自他の存在を大切にしようとする態度を育む

### ○準備するもの

模造紙×児童数

(各自) 幼少期の写真や家族からの手紙や自己紹介文など、はさみ、のり

### ○教育課程、実施時期

学級活動、乱暴な言動が見られるときなど

### ○留意点など

準備物については、クラスの児童やその家庭の実態に十分配慮すること

### 展開例

	学習活動	指導上の留意点
導入 5分	1 「命」という言葉から連想されることを発表する  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">人間マップをつくろう</div>	・自由に発表しあう雰囲気をつくる
展開 35分	2 ペアになって生きている証を探す  3 ペアでお互いの姿を模造紙に写し取り合い、人型に切り抜く  4 切り抜いた自分の人型に、用意した手紙や写真などを自由に貼り付け、自分の人間マップを作成する	・相手の脈、呼吸、心臓音、目の動きなどを観察させる ・聴診器があると実感しやすい  ・怪我のないように留意する  ・自分の成長や、家族等に支えられていることが実感できるようなものを用意しておく
まとめ 5分	5 本時の振り返りをする	・何人かに感想を発表させてもよい

## 参考

### ○「『命』という言葉から連想されることを発表する」について

本授業は人間マップづくりを通して、命の大切さを実感させ、自他の存在を大切にす  
る心を育むことをねらいとしている。しかし、この時間の多くは工作作業になるため、  
導入で必ず命についてイメージさせ、学習のねらいを理解させることが大切である。

### ○「ペアになって生きている証を探す」について

ペアでお互いの体の音や動きを観察させ合う。必ず同性のペアにすること。心音や呼  
吸音、唾を飲み込んだときの音など、体の中から聞こえてくる音や、まばたきや眼球な  
どの無意識な動き、脈拍などを観察させる。普段は意識しない体の内部の働きや、無意  
識による運動を実感することによって、生物体としての「体」を再認識し、命の存在を  
実感できる。かなり接近したり、接触したりするため、十分な配慮を行うこと。また、  
接近等に嫌悪感がある児童には強要しないこと。

### ○「ペアでお互いの姿を模造紙に写し取り合い、人型に切り抜く」について

床に広げた模造紙の上に仰向けに寝た状態で、ペアの相手に鉛筆で型を取ってもらう。  
鉛筆の先などで怪我をさせないように十分留意する。

### ○「自分の人間マップを作成する」について

幼少期の頃の写真や、その頃にした絵、その頃好きだったキャラクターの切り抜き  
などの成長を感じられるものや、家族や親戚の写真や家族からの手紙など、周りに支え  
られて生きていることが実感できるものを自由に貼らせる。また、受精卵に見立てた  
0.2mm の点と、その児童の出生時の等身大の赤ちゃんの絵などを書き込ませると、より  
自分の成長を実感できると思われる。

### ○今後の展開について

次時に「私の人間マップ発表会」等と題して、クラスで発表させたり、掲示して展示  
会を開いたりすることが考えられる。また、今後の学習成果（絵、作文、書写作品など）  
を、掲示してある人間マップの上に貼っていき、各々の人間マップを過去から未来へと  
繋げていくような取組も有効だと思われる。

## 資料

参考文献 『命の大切さ』を実感させる教育プログラム